

第21回日本医療情報学会春季学術大会開催にあたって

2017年度の第21回日本医療情報学会春季学術大会の大会長を拝命し、福井で開催することとなりました。2000年から始まった医療ICTの国家的な推進も、約15年を経過して大きく変化をもたらすようになってきました。健康・医療戦略推進本部が設置され、その中に次世代医療ICT基盤協議会では、これからの医療ICTの活用を推進する枠組みワーキングとして設置されるようになりました。

本大会のテーマとしては、「医療情報における解体新書－医療ICTの変革における医療情報の役割－」ということで、福井出身の杉田玄白にならって医療情報が進むべき方向という意味を込めて設定いたしました。杉田玄白が解体新書を完成させ、西洋医学を広めることに寄与したことは有名ですが、医療ICTの現状に関してネットワーク技術の大きな変革やセンサー技術の大きな進歩・大量のデータ収集と処理を行うビッグデータ・機械学習・人工知能の拡大などが、医療での情報利用環境が大きく変化する時代が到来しました。その中で、これからの医療ICTの急速な拡大の中で、中心的な役割と担うとともに、その集大成が医療情報学であることを目指して、このようなテーマといたしました。

医療ICTを推進し活用することが医療情報学の発展にもつながると思っておりますので、本大会を通して活発な議論が行われるとともに、この議論がこれからの医療ICTを牽引することを願っております。

また、福井は、世界に3つしかない恐竜博物館を有しており、展示だけでなく新たな発見もされております。ぜひ、恐竜を見ていただき新たな刺激として、今後の活発な研究の刺激にもなっていただければと思っております。

平成29年1月吉日

第21回日本医療情報学会春季学術大会

大会長 山下 芳範

(福井大学医学部附属病院 医療情報部 准教授)

